

山口大学図書館報

Yamaguchi University
Library BulletinLIBRARY
NEWS

ISSN 0388-5569

Dec 2008
No.78

目 次

学術機関リポジトリの拡大……………	1	研修・行事……………	6
大学祭・展示……………	4	トピックス……………	9
萩市との連携展示……………	4	本学関係教員著作物寄贈図書……………	11
オープンキャンパスにおける図書館案内 ……	5	会議・研修・人事異動・編集後記……………	12

学術機関リポジトリの拡大

情報環境部情報推進課長 吉光 紀行

はじめに

そもそも学術機関リポジトリ (Institutional Repository) とは何か。今更の感があるが、フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』によると、「研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム」とある。また、アメリカネットワーク情報連盟のクリフォード・リンチは「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」と述べている。すなわち、大学や研究機関で生産された電子的な知的生産物を捕捉し、保存し、原則的に無料で発信するためのインターネット上の保存書庫のようなものである。

現在(平成 20 年 11 月 19 日)、世界では 1277 (OpenDOAR より) のリポジトリがあり、国内でも、87 (NII より) の学術機関リポジトリが存在している。

山口大学図書館は、平成 17 年度から平成 19

年度の 3 年間、国立情報学研究所 (NII) が推進する「最先端学術情報基盤整備 (CSI : Cyber Science Infrastructure)」の一環である「学術機関リポジトリ構築連携支援事業」の委託事業に応募し採択された。それを元に山口大学学術機関リポジトリ (YUNOCA: Yamaguchi University navigator for Open access Collection and Archives) を構築し、学内で生産された学術研究成果を、収集・保存し、学内外に広く発信・提供することを目的として公開している。YUNOCA は世界の 1277 のリポジトリのひとつでもある。

学術機関リポジトリの意義

一般に、研究者は自分自身の研究成果を広く世の中に知らせるために論文にし、出版社に投稿料を払い投稿する。出版社は、それらを集めて雑誌にして出版し、その論文を読むために研究者は、またお金を払って雑誌を購入して読むことになる。しかし、学術雑誌の高騰により、

研究者や大学図書館が購読できない「学術雑誌の危機 (Serials Crisis)」が訪れている。これでは、学術コミュニケーションの悪循環に陥っていることになる。そのため、学術機関リポジトリは、研究成果物を生産している研究者自らが、自らの手で世界の学術流通の主導権を自らの手に取り戻すための変革でもある。

また、研究者が生産した研究成果物は、彼らがそれぞれ個々に保存し続けることは難しく、学術資産としての論文が散逸することも想定されるため、研究機関が永久的に保存することを保証する必要もあると考える。

地域の研究成果物の発掘

研究活動のための知的情報の流通を拡大するためには、地域の研究成果物の発掘が必須であり、それぞれの研究機関が責任をもって学術資産としての研究成果物の収集・保存及び発信をより効果的に行う必要がある。

従って、学術機関リポジトリシステムの構築には、少なくともそれらの研究成果物を保存し、公開するための電子アーカイブシステムが必要となる。

学術機関リポジトリシステムは、大きく分けて、資料を検索するための書誌情報 (メタデータ) とその学術論文本体で構成され、それらを保存するための入れ物 (ハードウェア) や情報発信するための仕掛け (ソフトウェア) が必須であり、そのための経費とそれらを管理運用するための人材が必要となるため、各研究機関が単独でシステムを構築し、維持管理することが困難である場合が想定される。

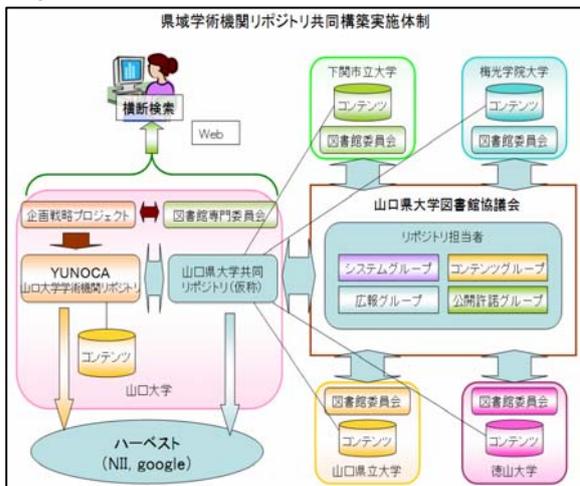
そこで、山口大学図書館は、NII が新たに「機関リポジトリの更なる普及とコンテンツの拡充、及びリポジトリ相互の連携による新たなサービスの構築をめざして」として、平成 20 年度から平成 21 年度の 2 年間に亘る第二期の委託事業の公募を開始したことから、山口県内の地域の研究成果物を発掘するため、山口県立大学、下関市立大学、徳山大学および梅光学院大学の各大学図書館を共同構築館として「県域学術機

関リポジトリ共同構築事業」(以下、共同リポジトリという。)(図 1) の事業化を申請して採択された。また、この共同リポジトリ事業を更に拡大するため、平成 20 年 8 月に開催された山口県内の大学、短大、高専で組織する山口県大学図書館協議会の総会において、協議会の一事業として位置付けることが承認され、山口大学を含む 5 大学だけではなく、県内の協議会参加館すべてがこの事業に参加できる体制が整った。



(図 1)

また、この事業を具体的に実施するためには、システムの運用体制を確立する必要があり、各大学図書館のリポジトリ担当でワーキンググループを設置し、企画・調整を行うことになった。



(図 2)

この共同リポジトリシステムは、図 1 及び図 2 のとおり、メタデータ (書誌情報) のサーバ

は共有するものの、各大学のポータルサイトはそれぞれに設定する予定であり、また学術論文本体は、各大学の研究成果物はそれぞれが持つべきものとのことから、原則として各大学のサーバで保存することになっている。ただし、各大学で保存する場所が確保できない場合は、当面の措置として共同リポジトリサーバに格納することも吝かではない。

共同構築事業は、当面2年間で一定の成果を上げることを目指しており、今年度は、次のとおり共同リポジトリプラットフォームの基本部分の構築とコンテンツ登録方法を確立するとともに学術論文等の電子化を促進し、コンテンツの登録を開始する計画である。

- (1) 各大学で刊行している紀要論文等（研究紀要、研究報告書など）及び学位論文等の調査とリポジトリ普及に向けた広報活動を展開する。
- (2) 各大学の資産である一次コンテンツ保存のためのサーバの整備並びに支援を行う。
- (3) 学術論文等の収集の拡大とコンテンツの公開に向けた掲載許諾の取得作業の促進。
- (4) 一次コンテンツの電子化とメタデータの作製
- (5) 共同リポジトリサーバの整備とメタデータ登録ツールの作成
- (6) ハーベスティングへの対応調査
- (7) 県域横断検索システムの試行

参考までに国内の地域共同リポジトリは、既に運用している山形（ゆうキャンパスリポジトリ）、広島（HARP）および準備中として新潟、福井、埼玉、岡山、山口、長崎の8つがある。

大学評価との連携

学術機関リポジトリは、現在のところそれぞれの大学図書館の事業として進められているが、学術資産としての研究成果物の保存は、本来大学として責任もって行うべき役割であるため、大学の大きな事業として位置付けられるもので

ある。そのためには、図書館だけではなく、研究者（教員）と連携して、この事業に取り組む必要がある。

更に、学術機関リポジトリは、システムに収集した研究論文の保存を保証することで教員評価データベース等とのリンク等により、教員の業績リストとして位置付けることができるため、大学評価データベースのひとつとして、大学の効率的運用に寄与することができる。

また、学術機関リポジトリ（YUNOCA）が、国立大学評価委員会の平成19年度評価において注目されている事項のひとつとして取り上げられていることから、大学評価のひとつの指標になるものと思われる。

今後の課題

学術機関リポジトリシステムは、電子アーカイブシステムであることから、将来は研究論文に限らず、古文書資料やマルチメディアコンテンツ、教材資料も学術資産として登録する対象にし、未来に繋がる事業であるべきではないかと考える。また、コンテンツの電子化及びメタデータ作製等は、将来の図書館職員を目指す学生や学術論文の生産者となりうる大学院生等との協働作業とし、リポジトリの継続性を確立することを考えている。

以上のことから、県域の共同リポジトリ構築は、山口県大学図書館協議会の大きな事業であるとともに、継続して管理運用することが求められており、そのため県内の各大学が連携し、将来的には県内の大学コンソーシアムの事業の一つの柱として位置付けることができれば、更なる展開が見込まれる。

大学情報機構 2008 3 キャンパスで開催

大学情報機構では「大学情報機構 2008」と題して、図書館、メディア基盤センター、埋蔵文化財資料館が共同で、それぞれの特色を生かした企画を、大学祭の日程（平成 20 年 11 月 1 日 姫山祭、11 月 8 日 医学祭、11 月 16 日 日常盤祭）に合わせて催しました。

図書館では、「ふるさと文学者の横顔 ～山口市、宇部市にゆかりのある人たち～」を各キャンパス（総合図書館・霜仁会記念会館 1F・工学部 D 棟 1F）で開催しました。山口大学の各キャンパスは山口市と宇部市にあることから、両市にゆかりのある文学者 13 名をピックアップして、文学者の紹介ならびに地図や史跡写真・解説などパネル紹介を行い、資料とともに展示を行いました。特に資料については、山口大学で所蔵するもののみならず、山口県立大学や山口県立図書館、萩市立図書館等から貸借するなどして、可能な限り手にとって閲覧できるように展示しました。

昨年に引き続き、大学祭にあわせて 3 つのキャンパスすべてで開催しましたが、開催日の延

べ 3 日を通して訪れた人数は 500 名を超え、昨年度を大幅に上回りました。今回、図書館間の連携等により、本学に所蔵していない資料も公開することができ、来場者からは、「マイナーな人たちと思って見ていたが、エピソードにロマンがあると思えた」「MAP にあったところに行ってみてみたい」「初版本が見れてよかった」といった感想もあったことから、じっくり見ていただけたものと考えております。今後も、改善・工夫を図りながら、継続していきたいと考えています。



医学祭での展示の様子

萩市との連携展示

萩市の萩市立萩図書館にて開催された企画展「資料でみる萩の明治維新」に、共催として山口大学図書館が参加しました。

内容としては、萩図書館の所蔵する維新関係資料の展示や、萩市内の史跡紹介パネルなど目で見えて楽しめる展示となっており、山口大学図書館からも「長州藩の財政改革—明治維新に向かって—」と題したパネル展示を提供し、萩図書館にて展示がなされました。

展示は平成 20 年 10 月 28 日から開催され、多くの来館者からご好評を頂き、11 月 9 日で終了しました。また、展示期間中には萩図書館の甲斐館長と本学の阿部図書館長との懇談会も行

われ、両館の交流を深めることができました。



企画展示を閲覧する阿部図書館長（中央）

オープンキャンパスにおける図書館案内

県内外の高校生および保護者等を対象としたオープンキャンパスの一環として図書館案内を実施しました。内容は総合図書館、医学部図書館、工学部図書館共に館内案内やビデオ「山口大学の一年」の上映を行なったほか、各館の特徴を生かした展示等も実施しました。

【総合図書館】

日時：平成20年8月5日（火）

10：00～16：00

入館者数：1,110名

配付資料：山口大学図書館案内、キャンパス情報マップ、平川地区情報マップ（探索編）

午前中は個人、グループを問わず、受付順にスタッフがツアー形式で館内を案内していましたが、昼時間には入館者が多すぎて対応しきれず、受付時に資料を渡して簡単な説明をするにとどまり、時間のある限り自由に見てもらうことにしました。

スタッフは職員および学生協働の学生で、全員揃いのシャツを着用して対応しました。

【医学部図書館】

日時：平成20年8月6日（水）

9：00～17：00

入館者数：66名

配付資料：医学部図書館へようこそ、医学部図書館利用案内（学外者用）

展示は2点実施しました。

- ①館内の配置図や写真をパネルで紹介
- ②医学部関係資料および医学部教員著作物の紹介

医学部の特徴が良くわかるように、また資料は手に取って読みやすいように工夫しました。

【工学部図書館】

日時：平成20年8月6日（水）

10：00～16：00

入館者数：94名

配付資料：しおり

常盤台今昔写真展をおこなったほか、聞蔵ⅡやOPACの体験コーナーを設けて入館者に実際に調べてもらいました。おみやげ用に作成したしおりは大変好評でした。



総合図書館



医学部図書館



工学部図書館

研修・行事

第49回中国四国地区

大学図書館研究集会を開催

平成20年10月23日(木)～24日(金)の両日、中国四国地区大学図書館協議会は、山口大学を当番館として、『KKRあさくら』において標記研究集会を開催いたしました。

今回は、『これからの大学図書館に期待されるもの』を主テーマに、中国四国地区の国公立大学のうち42の図書館より、55名の参加がありました。

初日は、「特別企画」として本学メディア基盤センター杉井准教授が開発したeラーニング教材作製システムについて説明があった後、基調講演としてお茶の水女子大学図書館の茂出木理子氏、及び就実大学教授の中野美智子氏から、現在の大学図書館が果たすべき役割と向かうべき方向性について、各々の講師の理論と実践に基づいた講演が行われ、新鮮な話題に参加者がメモを取る姿が見られるなど、熱心に聞き入っておりました。続いて、参加した大学より日常の業務を通して得た事例等を基にその成果を報告する「研究発表・実情報告」や図書館職員歴の比較的浅い人が自由に意見発表をする「ブラウジングコーナー」へと続きました。

二日目は2つの分科会が行われ、第1分科会では中野講師をアドバイザーに迎え「地域社会との連携について」を、第2分科会では茂出木講師をアドバイザーに迎えて「利用者サービスの充実にむけて」をテーマに、各大学における取り組みや課題について活発な討議が繰り広げられ、参加者は随所でアドバイザーから助言を得るなど、実りの多い会議となりました。

なお、休憩時間を利用して、初日に行われた基調講演等をeラーニング教材化したビデオ放映が行われ、参加者一同はスクリーンに映し出される映像や音声を熱心に視聴していました。



挨拶する阿部山口大学図書館長

目録システム地域講習会

(雑誌コース) を開催

平成20年8月27日～29日の3日間、山口大学にて、全国の大学図書館の総合目録データベースを構築していくための目録システム地域講習会(雑誌コース)が国立情報学研究所との共催により、国立大学図書館協会中国四国地区協会の事業として開催された。

Webを使ったセルフラーニング教材による事前学習や事前学習修得テストをあらかじめクリアして講習会に臨んだ大学図書館及び県立図書館等13機関20名の受講者は、総合目録データベースの構成及びデータ登録の考え方(入力基準)の習得及び目録システム(NACSIS-CAT)への書誌・所蔵データの登録や修正方法を実際にPCに向かって習得するなど、熱気のもった講習会となった。

(情報企画課情報管理係)



旧植民地関係資料ワークショップ報告

9月25日～26日、一橋大学において旧植民地関係資料（主として戦前期の朝鮮・満州・中国・台湾等に関する文献）に関するワークショップが開催されました。このワークショップは、資料を所蔵する図書館の職員など実務担当者と利用者である研究者の双方が同席して問題点を出し合い、保存と利用の両面から資料活用の最善の方法を探ろうとしている点に特徴があり、今回で8回目を迎えました。一橋大学経済研究所は、他大学に先駆けてこれらの資料を整理し、インターネットによる検索も可能としています。本学にも、経済学部の前身である旧制山口高商時代に収集した満鉄関係資料を始めとする戦前期の東アジア地域に関する資料約2万冊が東亜経済研究所において大切に保存され、今日に至っています。これら資料の中には他機関に所蔵のない稀少本や調査統計・パンフレット類などが多数含まれていて、学外の研究者からも評価が高く、NII 遡及入力事業による NACISIS-CAT への登録を機に、ILL 複写受付件数は増加の一途を辿っています。

今後とも本学の貴重な学術資産と位置づけ、経済学部はもちろんのことアジア経済研究所等の他機関とも連携しながら、効率的な保存と公開の可能性を探って行きたいと思えます。

(利用者サービス係 金重幾久美)



一橋大学図書館には、こんなに大きな資料もあります。(日本郵船の会計帳簿類)

平成20年度図書館等職員

著作権実務講習会に参加して

平成20年9月10日から9月12日までの3日間、九州大学附属図書館にて開催された文化庁主催「平成20年度図書館等職員著作権実務講習会」を受講しました。

講習は PowerPoint によるスライドを用いた講義形式で、著作権法の法規条文理解・解釈に関する概論的な内容が中心となっていました。また、最終日には3日間の講義内容をまとめた小テスト形式の演習が行われ、さらには講習会終了後に与えられたテーマに基づくレポートの提出を求められるなど、どちらかといえば大学の講義のような雰囲気があり、大学生に戻ったような気分を味わいました。

さて、今回の講習会を受講したことにより、自身の著作権に関わる基礎知識を改めて復習・整理できたと感じています。また、普段の図書館業務において触れることの少ない分野、たとえば放送・実演関連などの著作権処理についても学習できたことは、図書館の扱うメディア＝著作物の範囲や種類が広がりつつある中で、今後重要な知識となってくるのではないかと思います。

著作物そのものを扱う図書館にとって、著作権の知識は基礎的かつ必須のものです。今後の業務において、本講習の成果を活かすことができると考えています。

(利用者サービス係 川上 誠)



学術情報リテラシー教育担当者

研修に参加して

平成 20 年 10 月 22 日から 24 日の 3 日間、大阪大学で開催された「学術情報リテラシー教育担当者研修」を受講しました。

1 日目はまず学術情報リテラシーとはどういうものかを整理するために「学術情報リテラシーの理論と動向」の講演を聞いた後、図書館がどのように学術情報リテラシー教育を行っているか各大学から事例報告がありました。情報リテラシーの今日的な理解・目的・企画や実施方法など再確認し基本的な枠組みを整理することができました。また、他館の事例を聞いていると、リテラシー教育を行う上で計画→活動→評価→改善→計画の流れをかなり丁寧に踏んでいると感じました。

2 日目はプレゼンテーション技法を主に勉強しました。プレゼンを聞いた後にそのプレゼンを評価・解説するという試みもありました。プレゼンや講習会をする上での展開方法や話し方、資料作成のポイントなどととてもわかりやすい発表ばかりでした。今後自分が講習会を行うときこれらを取り入れたいと思います。

3 日目はグループ討議がメインに行われました。アンケートで事前に討議したいテーマを記入し、グループに分かれて、決められた時間で資料を作成し全員の前で発表を行いました。私たちのグループは「スキルをどのように継承していけばよいか」ということをテーマに、①なぜこの課題を挙げたか→②背景→③解決策→④具体的な解決方法→⑤まとめという流れで資料を作成しました。短い時間でプレゼン資料を作成するというのはとても大変なものでした。しかし、他館の方の意見はとても新鮮に感じ、とても活発な意見交換ができました。また、各グループの発表も短い時間で作ったと思えないほどよくできていて、様々な工夫もされており参考になりました。

この研修に参加することで他館の学術情報リテラシー教育を知ることができ、プレゼン技法も勉強できました。何より利用者の視線に立つことの重要性を実感しました。利用者に良質のサービスを提供するためにどうすればいいか考えさせられる研修でした。

(工学情報係 賀田 秀樹)

<持続可能な機関リポジトリのための人材進化構造> 第一回講習会に参加して

平成 20 年 11 月 6 日から 11 月 7 日までの二日間、九州大学において開催されました「持続可能な機関リポジトリのための人材進化構造」第一回講習会を受講しました。この講習会は国立情報学研究所が実施する「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業学術機関リポジトリ構築連携支援事業(領域2)」により開催されるもので、機関リポジトリを持続的に運営するために必要なシステムの基礎知識を養うとともに、機関相互の連携体制を強化することを目的としています。

また、この講習会については、今年度中に開催予定の第二回講習会までを一連のプログラムとしており、第一回から第二回の間にも、課題をこなしていくこととなります。

受講形態についてはペアプログラミングの形式で行い、まず項目毎に講義が行われ、その後実践方式で研修を行いました。また、講義の間にはそれまでに受講した内容で簡単な Web アプリケーションの設計をして、それ元に Web アプリケーションプログラムの作成をし、最後にプレゼンを行いました。ただ、実際には限られた時間の中で設計したとおりに Web アプリケーションを動かすのにとても苦労しました。

二日間の講習でしたが、大変内容の濃い経験ができました。

(情報支援係 尾上 誠)

トピックス

中学生の職場体験学習の受入

平成 20 年 9 月 30 日、宇部市立藤山中学校第二学年の女子生徒さん 4 名が工学部図書館を訪れ、職場体験学習を行いました。

この学習のねらいは、実際に仕事を体験することにより、職業というものを現実的に意識したり、働くことの意義や目的、自分の適正等を考え、将来の自分の進路計画に役立てようというものです。

午前は、大学及び図書館の概要説明に続き、閲覧室で図書の配列作業を実際に体験してもらいました。午後には、カウンター業務の説明を機器の操作を中心に行った後、図書の目録を作成してもらいました。パソコンを使い図書を検索し、データをダウンロードし目録を作成するという作業は、中学生には少し難しい内容であったかと思われそうですが、慣れない手つきながらも順調に進めていました。

最後にまとめとして、テレビ会議室を使い総合図書館の職員 3 名も加わり質疑応答を行いました。答え難い質問に困らされる場面もありましたが、総合図書館のカウンター回りを中継するなど、ネットワークを使い遠方とリアルタイムで話せるテレビ会議は、中学生の皆さんには有意義な時間であったのではないのでしょうか。

(工学情報係)



カウンター業務の説明風景

図書館の空調&省エネ対策推進中！

総合図書館では、夏の冷房対策として、2階閲覧室の窓ガラスに UV カットフィルムを装備しました。紫外線はもちろんのこと赤外線カット率も 80%以上の省エネ対応型フィルムで、透明タイプのためあまり目立ちませんが、効果の程は温度計によれば室温 2℃の差を観測しました。

また、一般閲覧室に続いて 2ヶ所目となる個別エアコンを第 4 閲覧室に 2 台、ブラウジングルームに 1 台、そして 2 台の扇風機を壁に設置しました。真夏には常時 30℃を超えていた場所です。

更に 3 階の館長室と部長室の外には『よしず』を立てかけ、直射日光を遮って涼しくなる工夫をしています。

今回設置できなかった閲覧室や書庫内にも順次空調対策を行うつもりで、利用者の皆様によりよい環境を提供できるよう努力しております。来年の夏は快適な図書館となっている筈！？ご期待ください。

(利用者サービス係)



透明断熱タイプの UV カットフィルムを装備した窓ガラス (第 4 閲覧室)

庶民史料整理について

総合図書館所蔵の庶民史料は、幕末から明治にかけての地方の庶民生活の実情を映す、貴重な資料群です。もともとは農学部が各家から寄贈を受けたもので、その後、農学部分館廃止を機に、総合図書館へと移管されました。現在、史料は箱入りのまま貴重書庫に置かれています。



貴重書庫内の庶民史料

これら庶民史料は、希望に応じて利用に供してはいますが、その際問題となるのが目録と現物の現状です。

庶民史料の目録は、まだ農学部にあった昭和36年に作成されたものがあるのみで、以降増補や改訂は行われず今に至っています。一方、現物、つまり史料そのものとはいうと、これもまた長い間整備されぬまま幾度かの移動を経て、現在の場所に落ち着いているようです。目録、現物ともに長らく手を入れられていないことで、史料の所在や状態の確認、史料群全体の把握が十全に行われていないという現状があります。

そこで、この状態を改善すべく庶民史料の整備を進めていくことにしました。最終的には史料全体の整備、そしてその先にある活用を目指していますが、まずは現状の把握を第一段階の目標としています。

具体的な整理作業の手順をごく簡単に示すと

下記のようになります。

- ① 現目録と史料の照合
- ② 現目録に登録番号等追記
- ③ 史料の整備・保存箱への収納

「ごく簡単に」という表現には訳があり、実際に作業を進めていくと、この手順からの脱線を何度も余儀なくされます。例えば、目録にないものが大量に出現したり、またその逆があったり、古い史料ゆえ判読不能であったり、とこういった史料の続出に、これらをどうしていくのか対応に頭を悩ませます。

ともあれ、古文書の知識のある学生協働のLA (Library Assistant) などの協力を仰ぎ、紆余曲折しながらも作業を進めています。

現在、中山家、枝村家の文書についてはひと通りの作業が終わっています。これらについては史料の現状が把握でき、目録との対応もとれるようになりました。



作業後の状態

まだ、整理を待つ史料の果ては見えませんが、千里の道も一歩から、という言葉を手勝手に合言葉に決め込んで、現在も継続的に作業を進めています。

(情報サービス係)

図書館職員が銀メダルと銅メダルを獲得 —第8回全国障害者スポーツ大会—

10月11日(土)～10月13日(月)にかけて大分県(佐伯市総合運動公園佐伯市民総合プール)で開催された第8回全国障害者スポーツ大会水泳競技において、情報環境部職員の巨海(おおみ)裕典さんが、25メートル平泳ぎの部で銀メダル、50メートル平泳ぎの部で銅メダルを獲得するという快挙を成し遂げました。

巨海さんは、7月8日から仕事が終わった後に大学のプールを利用して水泳部の人たちと一緒に練習に励み、自信をもって大会に臨みました。

25メートル平泳ぎでは19.76秒、50メートル平泳ぎでは43.69秒と、いずれも自己記録を大きく更新する好タイムでした。なお、今回のメダル獲得は、昨年の秋田大会に続き2年連続となります。

巨海さんは「金メダルには手が届きませんが、来年度は金メダルを目標に頑張っていきたい。」と今後の抱負を話しました。

10月21日(火)には、阿部学術情報担当副学長、牧村情報環境部長、板谷情報企画課長とともに丸本学長を訪問し、結果の報告を行いました。

丸本学長は「おめでとう。2種目でのメダル獲得は大変素晴らしいことです。金メダル、さらにはパラリンピックを目指してこれからも頑張ってください。」と巨海さんの栄誉をたたえました。



丸本学長(左)へ報告する巨海職員(中央)



前列左から丸本学長、巨海職員、後列左から牧村情報環境部長、阿部山口大学図書館長(学術情報担当副学長)、板谷情報企画課長

本学関係教員著作物寄贈図書

寄贈者(寄贈順)	書名
阿部 憲孝(理学部)	トロポノイド化学: トロポン、トロポロン、トロピリウムイオンの化学 / 齋藤勝裕監修 / アイピーシー
志磨 裕彦(名誉教授)	The geometry of Hessian structures / Hirohiko Shima. / World Scientific
山崎 鈴子(理学部)	環境化学 / 齋藤勝裕, 山崎鈴子著 / 東京化学同人

◆会議

【学外】

- 20.7.23 3館協定担当者会議（於 山口県立山口図書館）
- 8.22 第12回山口県大学図書館協議会総会
（於 梅光学院大学）
- 9.9 平成20年度国立大学図書館協会中国四国地区事業委員会合同連絡会議（於 岡山大学）
- 9.12 創立百年記念事業委員会、平成20年度山口県図書館協会理事会（於 山口県立山口図書館）
- 10.16 平成20年度国立大学図書館協会中国四国地区協会実務者会議（於 山口大学）
- 10.23-24 第49回中国四国地区大学図書館研究集会
（於 山口大学）
- 11.7 平成20年度中国四国地区国立大学図書館所管部課長会議（於 岡山大学）
- 11.13-14 第44回日本医学図書館協会中国・四国地区会総会
（於 香川大学）

【学内】

- 20.7.1 第1回医学部図書館部会
- 7.4 第2回企画戦略プロジェクト(YUNOCA)
- 7.14 第2回広報専門部会
- 7.18 第2回図書館専門委員会
- 7.29 第2回工学部図書館部会
- 7.31 第3回広報専門部会
- 8.7 第1回リポジトリ定例会
- 8.19 第3回工学部図書館部会
- 9.10 第1回山口大学所蔵学術資産継承検討委員会
- 10.9 第2回リポジトリ定例会
- 10.10 第2回山口大学所蔵学術資産継承検討委員会
- 10.27 第1回山口大学所蔵学術資産継承検討委員会 WG
- 11.12 第2回山口大学所蔵学術資産継承検討委員会 WG

◆研修

- 20.7.14-17 平成20年度山口大学係長研修（於 山口大学）
参加者：深川昌彦
- 7.23-25 学術ポータル担当者研修（於 名古屋大学）
参加者：永田一朗
- 8.20-22 目録システム講習会（図書コース）
（於 徳島大学）参加者：永田一朗
- 8.27-29 目録システム講習会（雑誌コース）
（於 山口大学）参加者：藏野祐二、松永沙織、池田恵子、森野誠子、西垣昇治、高田美栄子、賀田秀樹、宮田順子
- 9.5 ILLシステム講習会（於 島根大学）
参加者：島内美恵子
- 9.10-12 平成20年度図書館等職員著作権実務講習会
（於 九州大学）参加者：川上 誠
- 10.6-10 平成20年度漢籍担当職員講習会（初級）
（於 京都大学）参加者：森野誠子
- 10.3 平成20年度新規採用職員フォローアップ研修
（於 山口大学）参加者：永田一朗
- 10.22-24 学術情報リテラシー教育担当者研修
（於 大阪大学）参加者：賀田秀樹

◆人事異動

- 20.9.1 配置換 情報環境部学術情報課情報支援係 尾上 誠
(情報環境部情報推進課教務情報係)

編集後記

今号は、7月以降の図書館活動の特集です。巻頭は、今年度の課題のひとつである県域リポジトリについて、責任者である情報推進課長に現状報告をかねた、これからの方向性を示していただきました。また今年度は、利用者の皆さんが快適な環境で利用できるように、空調やフロアの改善にも努力をしています。これからの図書館にご期待下さい。

山口大学図書館報 「Library News」 No.78

2008年12月26日発行

<http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/>

編集・発行 山口大学図書館

〒753-8511 山口市吉田1677-1

TEL. (083)-933-5183 FAX. (083)-933-5186